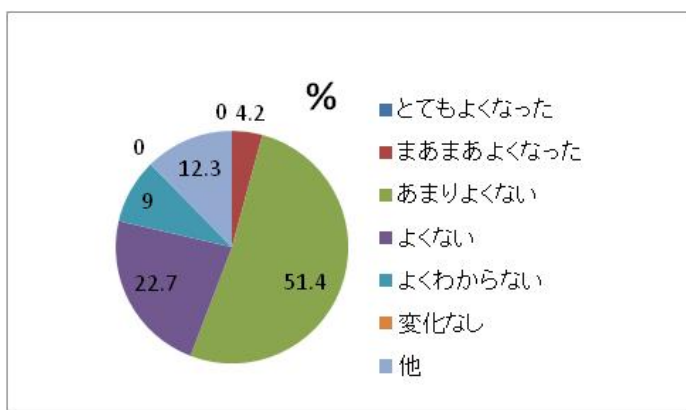


その1

産後の身体の調子がよいかどうか、の調査結果。全体の半数以上が「よくない・あまりよくない」という結果に。反対に、快適です、という方々の多くは、身内等のサポートをフル活用したり、金銭的にある程度の余裕がある場合の結果が多かったという格差社会の一端が産後生活の心身の状況にまで現れるという結果を生み出しました。



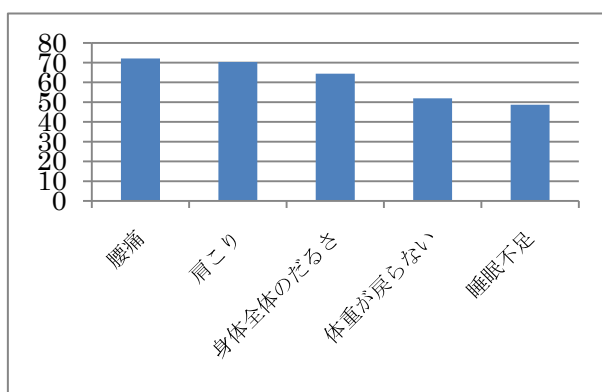
「よくない、あまりよくない」と回答した方々の御意見として

↓

- ・身内がそばにいない。転勤も重なるため、毎回出産は大変な思いをする。
- ・身内が亡くなった。
- ・サポート料金が高額すぎて手が出ないので、ちょっと預けて自分の身体をいやす、というようなことがここまで贅沢なのか、という形。公平に母親もサポートを受けることができたならありがたいのに、と思う。
- ・検診や予防接種や度重なる病気で子どもの世話におわれ、なかなか自分に目が行き届かない。
- ・3人もいるので子育てだけで精いっぱい。教えてくれる人がいればいいけど。
- ・親の介護もしているので負担が非常に大きいから
- ・発達障害の子どもを預けて治療院に行ったら、すごく迷惑がられて親子共に涙した。そして子どもを預けて自分の身体を大事にすることすらできないのかと非常に落ち込んだから
- ・発達障害の子どもと24時間向き合う中で疲労が蓄積し、虐待を考えたくらい
- ・転勤族で頼める人がそばにおらず、孤独な育児をしているので心身の疲労がピークに
- ・広汎性発達障害の理解がたりなし。子どもは気軽に預けて、という行政の言葉が重く感じられ、なかなかストレスを解消できない、

- ・同じ子育て中の母親には到底たのめないから
- ・子どもを預けることにあまりプラスのイメージをもたれていない祖父母や義理母など、周囲の視線が痛いので
- ・赤ちゃん連れ・子連れで気軽に身体をケアする場がひとつもない（有料で高いところにはとてもむり。一度に3000円以上も御金をとられては生活が維持できない）から
- ・子どもが一番、になり、自分はどうしてもあとまわしになりがち。
- ・子連れの広場ばかり。親になった自分をメンテナンスする安心な場所がほとんどない。あっても単発で一瞬で終わるようなものばかり。これでは身体はもたない。

といった意見がよせられました。



産後・育児中の心身の不調ベスト5の結果。腰痛から発展し、ぎっくり腰になった母親も多数。

これは単純に「大変だ」のひとことで済まされる問題ではなく、産後の身体ケアの重要性を示すものといってもよいでしょう。

肩こりは成人女性男性共に割合が年々増加している症状でもありますが、産後の女性に至っては、毎日繰り返される、合計にすると何時間にもわたる抱っこや前かがみの授乳などは、日々肩周りに疲労が蓄積されないはずがない重労働にあたります。子どもは年々大きくなり、重さも日々増加します。子育て中の姿勢を伴いながら身体のケアを実践することができるスキルの普及も急務であると我々は考えています。

極度の睡眠不足から虐待の一步手前という御話も伺いました。

上記2データ以外にも分析結果はございますが、ここでは割愛させていただきます。

このように、産後の健康は社会問題の一つとして捉えるべきと考えます。

よって、当団体では定期的な講習会などを企画・実施することで、お母様方の身体の負担を少しでも軽減していただけるような場づくりに努めていきたいと考えています。

